

ハナノキ *Acer pycnanthum* K.Koch

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 4、総点 16。本地域を代表する湧水湿地性の固有種で、鑑賞価値も高い。県内では生育地も個体数も少なく、まとまった集団は 1カ所だけである。

【形態】

落葉性の高木。高さ 30m、直径 1.5m に達する。葉は対生し、長さ 3~8cm の柄がある。葉身は広卵形、老木の葉は切れ込まないが若木の葉は 3 裂し、長さ 4~8cm、幅 3~10cm、先端は鋭尖頭、基部は浅心形から広くさび形、掌状の 3 脈があり、辺縁には重鋸歯があり、裏面は粉白色をおびる。花期は 4 月、花序は束状で若枝の葉腋につき、雌雄異株、花は葉が展開する前に咲き、一つの花序に 3~6 個つき、暗紅色である。果実は 2 つの分果に分かれ、それぞれの分果は長さ約 2.5cm、翼は直角ないし鋭角に開き、柄は長さ 6~7cm に伸びる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東: 2 豊根(芹沢 86694, 2011-4-10)、11 作手(芹沢 48476, 1988-5-13)。西: 21 下山(小林 57163, 1995-5-11)、22 小原(日比野修 2632, 1994-9-19)。尾 37a 瀬戸(写真は「植物からの SOS」=SOS 旧版 図版 17)にもあるが、枝が高く良好な標本を採取できない。愛知県の木に指定されているが、県内では自生のは少ない。分布の中心は岐阜県東濃地方である。二次的に逸出したと思われる個体は、50 名古屋北部(村松正雄 29218, 2017-11-1)などにも生育している。

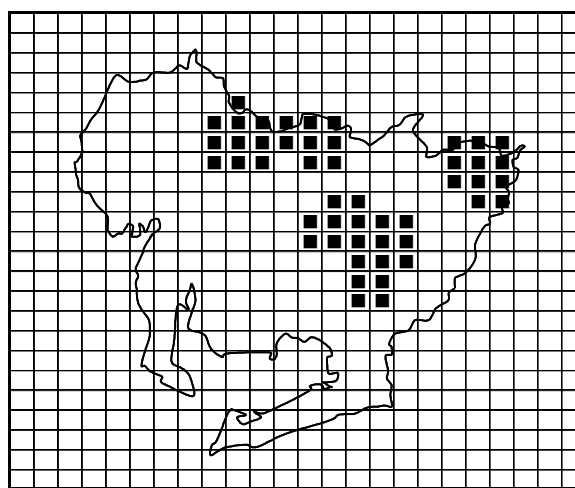
【国内の分布】

本州中部。長野・岐阜・愛知三県の県境付近に自生し、長野県大町市に隔離分布している。

【世界の分布】

日本固有種。近縁種が北アメリカ東部にあ

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

沢の源頭部などの湧水がある場所に生育する。点在することが多いが、小群落を作ることもある。

| | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林 | | | | |
| 草・岩 | | | | |
| 湿地 | ○ | | | |
| 水域 | | | | |

【現在の生育状況／減少の要因】

豊根の自生地は十数個体の成木がまとまって生育しており、国の天然記念物に指定されているが、観光開発により林床が攪乱され、本来の自然の状態が失われて、次世代の若木は育たない状況になっている。その一方で周辺に由来のはっきりしない若木が多数植栽されているので、現在ある成木が枯死すれば、自然集団としては絶滅の運命にある。瀬戸は 3 個体、作手、下山、小原はそれぞれ伐採後に萌芽した 1 個体があるだけである。

【保全上の留意点】

本種は県の木としてあちこちに植栽されており、そのため分布情報の混乱が懸念される。自然環境下に植栽することは、原則として避けるべきである。どうしても植栽する必要がある場合は、どの自生地から採取した種子を、どこでどのように発芽させたものであるか明確にし、できれば遺伝的な調査も行い、記録を将来も散失しないような方法でしっかり残すべきである。

【特記事項】

本種は長命な樹木なので、10 年後に絶滅する可能性はない。しかし、IUCN 基準に示された 3 世代という期間で見れば、絶滅危惧 I A 類という評価は妥当であろう。豊根村のハナノキには「ふれるとたたりがある」という忌避伝承があり(伊藤 2008)、それが自生地の保全に役立っていたらしい。同地は「川宇連ハナノキ自生地」として国の天然記念物に指定されている。

【引用文献】

伊藤正英. 2008. ハナノキのフォークロア. 伊那民俗 (72): 2-4.

【関連文献】

保木本 I p.288, 平木本 II p.8, 平新版 3 p.287, 環境省 p.446, SOS 旧版 p.63+図版 17, SOS 新版 p.66,68.